

9月20日（金曜日）から23日（月＝秋分の日）まで、

墓地では花と線香を用意しております。

声を出して元気になる

9月25日 水曜日 PM1:30～3:00

募 集

お求めいただいた冊子『愛唱名歌』を
ご持参ください。お持ちでない方は、
当日お求めください。（一冊千円）

日 時	9月25日（水曜日） 午後1時30分から3時まで
会 場	松岩寺（本石1-102）
会 費	五百円（当日、納めてください）
指 導	加藤純子

前日までに左記へ電話・FAX・
Eメールで申し込んでください

【申込先】 松岩寺

TEL 048(522) 1812
FAX 048(522) 9189
Eメール chief@shoganji.or.jp

不連続シリーズ「見つけた」

今秋も彼岸の入りから中日まで、墓地では生花とお線香を用意しています。現在、墓参用の花は寺が直接「花長」さんに注文しています。

記録を見ると、平成二十年の秋彼岸から、色とりどりの墓参用の花束に混ざって、シキミを主体とした緑色の花束を用意しています。なぜならば、炎天下では、色とりどりの花束はすぐに枯れてしましますが、シキミを主体とした束は、しばらく常緑を保ちます。しかも、日数がたつと、色とりどりの花束は腐るとい感じですが、シキミの束は凜として枯れる感覚です。そのうえ、香気から花瓶の水も長持ちします。

良いことづくめなのですが、松岩寺の墓地で花を求め方には、地味すぎるのと馴染みがないのに加えて、住職の粋な趣味が理解されず、評判が悪いです。中には、大変喜んでくれる方もおられます。喜んでくれる方の出身は、だいたい西日本です。どこが境界線かわかりませんが、名古屋以西の葬儀の供花といえはシキミでした。

「しきみ」とも「しきび」ともいいますが、日本国語大辞典（小学館刊）によれば、「しきび」は岩手・仙台・栃木・埼玉その他の方言で、たたくは、「しきみ」のようです。「モクレン科の常緑小高木。各地の山林に生え、墓地などにも植えられる」と辞典は説明してくれます。



しきみ = しきび = 柘

街かどに禅を探し現代に仏教を見つける

不連続シリーズ

見つけた！

今の熊谷では馴染みがないシキミですが、以前は身近な樹木だったようです。

たとえば、松岩寺の大原墓地内でも、古くからの旧家の墓所には、シキミの木が植栽されています。墓参のついでに、探してみても！

あるいは、私の知人に皇居にも庭石を納める有名な石材店のご子息がいます。自宅を新築する時にお母さんからの厳命で、庭にシキミを植えました。お仏壇用と墓参用にするためです。今では、小さかったシキミも大きくなって、小枝を伐って亡き両親の墓参に青山霊園へ行くとききました。

また、平安時代の『源氏物語』には、光源氏が出家した朧月夜への消息（ラブレター）をつける枝にもちいたという一節もあるから、歴史的にも由緒正しいのです。

ただし、春先になる実には猛毒があるから、絶対に食べたりしないでもっとも、毒があるからこそ、野獣の侵入を防ぐために墓所に植えたのです。むかしの人はほんとうに智慧があるな、と感心するばかりです。

以上のような、由緒と効用があるシキミです。地味で馴染みがないからと言って敬遠しないでください。正月の松飾りの代用品にシキミを使う地方もあるといえますから、常緑の緑に永遠の「いのち」を見つけてください。
今年の彼岸も、何束か墓地に用意しておきます。

秋からの新シリーズ

がんばらずに 自分でカラダをラクにする ～ 体調改善運動 ～

コンディショニング教室

9/7(土)、10/5(土)、11/2(土) 13:30～15:00

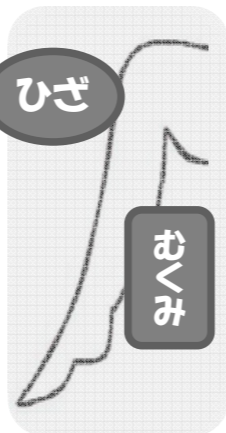
場所：松岩寺文化ひろば

約90分/受講料 ¥1000

首～肩こり、足～ひざ～股関節の不調・むくみなど、カラダの気になる部分を
むりなく自分で改善する ゆる～いエクササイズです。どなたもお気軽にどうぞ！

・服装/ゆったり動けるもの(ジャージなど。ジーンズ不可) ・持ち物/バスタオル×2枚

インストラクター≫ 米山 美咲 (日本体調改善運動普及協会認定 プロフェッショナル・トレーナー)



11/7 花園会・微笑会地方大会

松岩寺の本山は京都にある妙心寺です。その妙心寺に花園会という会があります。妙心寺派に属する寺の檀家さんの会です。その花園会の地方大会が、十一月七日（木曜日）に本庄市民文化会館で開かれます。同封した「ピー」をご覧ください。参加希望の方は、申し込んで下さい。
木曜日の行事ですが、奮ってご参加ください。

10/16～17 微笑会「信を深める旅」

本山妙心寺の文化財保護を目的とした親睦の会に微笑会があります。微笑会については、同封した印刷物に、説明があります。
八月十五日のお施餓鬼の法要に参列された方にご案内した微笑会「京都・冷泉家拝観」の旅は、定員に達しました。
住職が同行しますが、折角の機会だから、冷泉家文書のことなど、出発前に少し勉強しなくては、と思っっている
新秋です。